

令和7年度 第2回日置市健康づくり推進協議会議事録

令和8年3月4日 14時～

18名/20名 出席

議長 宮路委員、傍聴者1名

1. 令和7年度日置市保健事業の取組状況について

○満尾委員

・現在、レセプト点検をしているか。

→(田中係長)国保連合会に委託しておこなっている。重複・多剤内服者においては、市保健師にて対象者を抽出し、個別訪問を実施している。

・ジェネリック医薬品の利用促進について、個人で申し出をするのか。

→(田中係長)薬の処方の際に、ジェネリック医薬品の希望について本人に確認がある。健康保険証にジェネリック医薬品の希望の有無を記載する欄もある。国民健康保険係では、ジェネリック医薬品(後発医薬品)を使えば医薬品の価格が安くなるという旨の通知を出しているが、先発医薬品でしか効能がないものもあるため、使用の有無については、本人や主治医の判断による。

・慢性腎不全により、透析患者数の増加や医療費の増加があるか。

→(御領)日置市における血液透析患者数について、レセプト調べでは令和2～6年度までの平均が160名程度で、年々減少傾向である。国民健康保険、後期高齢者医療保険の被保険者で新規人工透析導入者は毎年5名前後で推移している。国民健康保険被保険者の腎不全にかかる医療費は、令和5年度が約3億2000万円程度、令和6年度が2億8000万円程度となっている。

・今後、腎不全の患者数は増えていくのか。

→現在の傾向としては、今後そこまで増えることはないと考えている。腎不全の患者数が増えないように予防対策事業をしており、その効果が出てきていると感じている。

○八田委員

・生活習慣病に関するデータ分析について、今後、広報する予定があるか。

→(田中係長)来年度、広報誌にて周知予定である。

・特定妊婦の人数と内容について。

→(尾崎係長)令和6年度の実績では、母子手帳交付数237件に対し、特定妊婦が31件。そのうち要保護児童対策地域協議会の案件が3件となっている。内容としては、妊婦の精神疾患既往歴があることや、サポート体制が弱く、パートナーにも頼ることができないなどである。

・初回産科受診料助成事業の実績が2名とあるが、母子手帳交付の時期など具体的な内容について。

→(尾崎係長)母子手帳交付時の妊娠週数は、10～12週である。独り親や自営業で低所得の方に補助をおこなった。

・産後ケア事業の利用件数と実人数について。

→(尾崎係長)令和6年度の実績によると、宿泊型：利用日数47件、実人数13人、日帰り型：利用日数53件、実人数17人。訪問型：利用日数44件、実人数24人。令和7年度11月末時点では、宿泊型：利

用日数 85 件、実人数 17 人と利用日数は令和 6 年度と比較し 2 倍近く増えている。日帰り型:利用日数 45 件、実人数 26 人、訪問型:利用日数 44 件、実人数 17 人。令和 6 年度より、産後ケアの 5 回目までの利用者負担額を無料としたことで利用者が増えている。令和 5 年度までに利用者が少なかったのは、サービス料の負担が大きかったことが要因ではないかと考えている。その他、産後ケアのサービス内容が分からないという声も寄せられているため、インスタグラムや広報等で周知をおこなっている。

○南田委員

・医薬品について、残薬があるにも関わらず追加処方されることがある。病院を受診する際に、残薬を持参することで、余計な処方を防ぎ薬代が安く済むことにもなると思うが、病院や薬局との繋がりはあるのか。

→(田中係長)国民健康保険の被保険者の方を対象にしているため、病院や薬局との繋がりまでは把握していない。

→(松村参事)来年度、薬剤師と共同で広報誌の記事を作成する予定である。その際、残薬の扱い方についても薬剤師へ相談をして、広報誌で周知できるようにしていきたい。

2. 令和 8 年度の日置市保健事業の計画について

質疑なし

3. 熱中症対策における各団体の取組について

○中原委員

・昨年度は、熱中症予防について気をつけた。訪問時、栄養摂取や水分補給が足りていない様子があった場合には声掛けを行った。高齢者は暑さを感じにくく、経済的な面で冷房を使わないという方もいたが、部屋が暑い場合には、民生委員にて指導をおこなった。

○下笠委員

・スポーツ少年団指導者研修会を行っている。毎年、講師を招き、指導者や団員の家族に勉強会を開催している。水分摂取についても指導をしている。

○満尾委員

・高齢者クラブでは様々なスポーツ行事をおこなうが、飲料水を持って来ない人がいる。そのため、必ず飲料水を持参し熱中症対策をするよう指導をしている。

・高齢者の熱中症搬送者数が多いというデータがあったが、熱中症の発生場所として、どこが多いのか。
→(川野) 令和 7 年度のデータでは、65 歳以上の場合、農作業中の搬送者が多い。農作業や散歩に行ったあとに体調が悪くなり、自宅で救急車搬送されるケースもある。また、冷房を付けずに部屋で搬送される方もいる。農作業をする方へは、作業をする時間帯についても周知し、熱中症予防のための啓発活動を強化していく必要がある。

○笠野委員

・運動会を5月の終わりに開催したりと工夫している。暑い時期は、昼休みに外で遊ぶことを中止する学校もあるが、日吉学園では10分おきに放送をかけ、休憩や水分補給をするように促している。暑すぎる場合の運動に関しては、体力づくりの問題も出てくるため、その兼ね合いが学校側としても難しい。

その他

○満尾委員

・出前講座について、依頼すればいつでも実施してもらえるのか。
→(松村参事) 熱中症や歯科口腔保健に関する事など、新規の出前講座を増やしている。申請件数も増えてきているため、希望の日程で実施できないこともあるが、可能な範囲で日程等調整し実施できるようにしている。